

主語と述語について考えよう

年 組 番 名前

一 1 から 3 の文の主語として適切なものを、アからエまでの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。

1 やんでいた 雨が 急に 降り出した。

2 わたしが かけている メダカが たまごを 産んだ。

3 明日の 遠足は 雨が 降ったら 中止です。

二 の中の文で、主語を示す ー ー ー 部ア・イの述語にあたるものを、
1 から 4 までの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア わたしは、今朝 ^{けさ} 1 さいた アサガオの花に、黒い種 ^{こゝろ} 2 が できるまでの 様子 ^{ようす} 3 を 観察 ^{くわんさつ} 4 した。

ア わたしは ↓

イ 黒い種 ^{こゝろ} が ↓

三 ー ー 部と ー 部とのつながりが合っていない文があります。ー ー ー 部と ー 部との
つながりが合っていない文の番号を、①から③までの中から一つ選んで書きましょう。また、
ー ー ー 部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

① くだものたつぶりのケーキは、とてもおいしそうです。

② 楽しみは、くだものたつぶりのケーキを食べます。

③ わたしは、くだものたつぶりのケーキを食べます。

選んだ文の番号

書き直した一文

主語と述語について考えよう

年 組 番 名前

1 から3の文の主語として適切なものを、アからエまでの書きましよう。

1 やんでいた 雨が 急に 降り出した。

イ

◆解説◆
文の中の、「何が、何は「や、」だが、だれは」にあたる言葉を主語といます。また、「どうする」「どんなだ」「なんだ」にあたる言葉を述語といます。

2 わたしが かけている メダカが たまごを 産んだ。

ウ

◆解説◆
主語を見つけるには、まず述語を確かめて、「ぞつする」のは、何か(だれか)を文の中から探し、主語と述語のつながりが合っているかどうかをたしかめましよう。

3 明日の 遠足は 雨が 降ったら 中止です。

イ

二 []の中の文で、主語を示す []部ア・イの述語にあたるものを、 []部

1 から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましよう。

ア わたしは、今朝さいた アサガオの花に、黒い種ができるまでの様子を観察した。



三 []部と []部とのつながりが合っていない文があります

つながりが合っていない文の番号を、①から③までの中から一つ選んで

[]部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ

- ① くだものたつぷりのケーキは、とてもおいしそうです。
② 楽しみです、くだものたつぷりのケーキを食べます。
③ わたしは、くだものたつぷりのケーキを食べます。

◆解説◆
文を読み直してみると、書いている時には気づかなかった文のあやまりに気づくことができます。主語と述語のつながりに注意しながら、文を読み返しましよう。

選んだ文の番号

②

書き直した一文

◆解説◆
②の文は、主語が「楽しみは」で、述語が「食べます。」です。主語と述語をつなげて読んでみると、「楽しみです、食べます。」となり、つながりが合っていないことが分かります。
主語の「楽しみは」に合わせて、述語を「食べる」に直します。「書き直すと、楽しみです、食べます。」となります。つながりが合った文になります。

楽しみは、くだものたつぷりのケーキを食べる事です。

これまでに学習したことをたしかめよう

年 組 番 名前

一 次の文の――部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

(1) 太陽がすがたをあらわした。

(2) 五年生をたいしようとした本。

(3) 答えが正しいかたしかめよう。

(4) 流れにさからって泳ぐ。

(5) かれの意見にさんせいする。

(6) 友だちに本をかす。

二 次の文の主語と述語に当たる言葉を(1)はアからエまでの中から、(2)はアからオまでの中からそれぞれ一つ選び、その記号を書きましょう。

(1) 話^アが おもしろ^イかったので、わたし^ウは 笑^エった。

主語

述語

(2) わたし^アは 弟^イが 作^ウった クッキー^エを 食^オべた。

主語

述語

三 次の文を、つなぐ言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。
天気が良かったので、公園へ出かけた。

四 次の文を、指し示す言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。
祖母^{そぼ}が育てた花がきれいにさいた。

これまでに学習したことをたしかめよう

年 組 番 名前

一 次の文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましょう。

※まちがえた漢字をもう一度練習しましょう。

- (1) 太陽がすがたをあらわした。
- (2) 五年生をたいしようとした本。
- (3) 答えが正しいかたしかめよう。
- (4) 流れにさからって泳ぐ。
- (5) かれの意見にさんせいする。
- (6) 友だちに本をかす。

貸す	賛成	逆らって	確かめ	対象	現し
----	----	------	-----	----	----

◆解説◆
 (2)「たいしよう」と読む漢字は、ほかに【対照】
 【大賞】などがあります。
 【対象】は、目的とする相手のことを表します。
 【対照】は、二つのものを見くらべることを表します。
 【大賞】は、最も良い者にあたる賞のことを表します。

二 「話がおもしろかったので」「が」「わたしは笑った」の理由を表しています。

中かしの「は」は「わたし」が「笑った」の理由を表しています。

- (1) 話が おもしろかったので、わたしは 笑った。

◆解説◆
 ひと組の主語と述語の
 まとまりが、別のままと
 りとままとまな関係で結
 びつくことがあります。

- (2) わたしは 弟が 作った クッキーを 食べた。

◆解説◆
 「弟が作った」が「クッキーを」をくわしくしています。

三 次の文を、つな 天気良かったので、公園へ出かけた。

(例) 天気良かった。だから、公園へ出かけた。

四 次の文を、指し示す言葉を用いて、二つの文に分けて書きましょう。
祖母が育てた花がきれいにさいた。

(例) 祖母が花を育てた。その花がきれいにさいた。

これまでに学習したことをたしかめよう

年 組 番 名前

一 次の文の――部のひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きましよう。

※まちがえた漢字をもう一度練習ましよう。

(1) 太陽がすがたをあらわした。

(2) ふくすうの意味がある言葉。

(3) 答えが正しいかたしかめよう。

(4) 三角形のめんせきを求める。

二 次の文の（ ）には、「 」の中のどの漢字を使った言葉が適切ですか。それぞれ書きましよう。

(1) はかる【計る・測る・量る】

・五十メートル走のタイムを（ ）。

・体重を（ ）。

・家から学校までのきよりを（ ）。

(2) たいしょう【対象・対照】

・五年生を（ ）とした本。 ・かの女たちは（ ）的な性格だ。

(3) いがい【以外・意外】

・必要なもの（ ）は置いていく。 ・とても（ ）な出来事。

三 次のアからカまでの言葉を「和語」「漢語」「外来語」に分け、それぞれ記号を書きましよう。

ア	走る	イ	報告	ウ	インターネット
エ	ぎゆうにゆう	オ	マヨネーズ	カ	花火

和語（ ） 漢語（ ） 外来語（ ）

これまでに学習したことをたしかめよう

年 組 番 名前

一 次の文の――部のひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。
合は、送りがなも書きましよう。

(1) 太陽がすがたをあらわした。

(2) ふくすうの意味がある言葉。

(3) 答えが正しいかたしかめよう。

(4) 三角形のめんせきを求める。

二 次の文の（ ）には、「――」の中のどの漢字を使った言葉を書きましよう。

(1) はかる【計る・測る・量る】

・五十メートル走のタイムを（ 計る ）。

・体重を（ 量る ）。

・家から学校までのきよりを（ 測る ）。

(2) たいしょう【対象・対照】

・五年生を（ 対象 ）とした本。

・かの女たちは（ 対照 ）的な性格だ。

(3) いがい【以外・意外】

・必要なもの（ 以外 ）は置いていく。

・とても（ 意外 ）な出来事。

三 次のしょう

◆解説◆
和語は、もともと日本にある言葉で、漢字で書いたときに訓で読みます。
漢語は、古くに中国から入ってきた言葉で、漢字で書いたときに音で読みます。
外来語は、中国以外の外国から入ってきた言葉で、ふつうカタカナで書きます。

を書きま

ア	走る	イ	報告	ウ	インターネット
エ	ぎゆうにゆう	オ	マヨネーズ	カ	花火

和語（ア・カ） 漢語（イ・エ） 外来語（ウ・オ）

面積	確かめ	複数	現し
----	-----	----	----

◆解説◆
(2)「複」と形が似ている漢字は、ほかに【復】などがあります。【復】は「かさなる」という意味があります。【復】は「もう一度する」という意味があります。
(4)「積」と形が似ている漢字は、ほかに【績】【責】などがあります。【積】は「つむ・つみ重ねる」という意味があります。【績】は「積み重ねた仕事やその結果」という意味があります。【責】は「しなればならないことめ」という意味があります。